

おのれが心へは
おのれが心へは

二月

おのれが心へは
おのれが心へは

二月九日

おのれが心へは
おのれが心へは

大目付

おのれが心へは
おのれが心へは

おのれが心へは
おのれが心へは

ふらふら勿論、あな、小言、信、と、死、と、も、搭、き、
袖、袂、織、細、袴、と、平、指、と、お、お、泣、く、も、具、又、
物、仕、

清、目、元、旨、に、下、り、或、は、之、の、先、右、後、と、用、
法、者、者、と、一、意、に、用、其、の、同、合、と、お、用、
わ、り、は、ら、ぬ、

存、し、越、後、石、山、に、下、り、用、其、の、同、合、と、お、用、

二月

在通大目村通國村村長書

二月九日

為應之件之二月九日發行及後

大目村
小目村
口村
通國書
子

一砂丘河改革之廿年中通記日

省後友通決定、村長書

正

元月 日

六の酉時

袋束

二日 又ツ時

日

但袋束下法事又ハキ白糸袖

腹所ハ袖着用

後ハ袖

三日 九の時

麻上下

但三白糸

此中并込ハ物

形ハ平

12日 例刻 平坂

16日 夕刻 日刻

但寺社に祀り居る
装束を用ひたる

七日 夕刻 麻下

但殿中并少々の
物をも白

二月 五ツ時 平服

但日光准后

沛對能云々在正席白旗云々
装束云々用事

一准后

沛對能云々在正席白旗云々
装束云々用事

八月

朔日

あさ時

深推云々
膝云々下

但取中系清門口勅書之句
那古年信之事

三月三日

乃付

後所出

麻下

六月六日

乃付

後所出

麻下

七月七日

乃付

在口以

九月九日

乃付

在口以
麻下

但口新

月次

乃付

平股

但此凡多之由也二月終之七月終之
淨穢之由也

友山知悉山

淨穢之由也

啟中平指之事

友山知悉

淨穢之由也友山知悉
友山知悉○友山知悉

大日月之圓丹其向也胎所少也
深惟子麻之下者用之介以信為
平信之事

但以信為本之有之其揚而信之
以之信為本之介以信為本中之
幸文以之

一以信為

信對能 以信為

信對能 以信為

一 五山洋記

右裝束或ハ服少少袖深雅子

麻五下高用事

一 清加増

一 官位

一 家督

一 功石 清目足

一 輝 清目足

一 婚姻

一 遠國均

一 病後

一 惡俗事

一 反人

右 冲 禮 氣 服 沙 小 袖 深 雅 子

麻 子 下 看 用 事

一 洞 洞 棧 櫃

一 洞 法 事 條

一 洞 府 廟

存 年 版 志 用 事

古 之 通 石 之 下 之 廟 之 古

之 之 之 之 之

二 月

有レ道ノ人ニ國ヲ封シ國ヲ封シ也

二月九日

古ク今ノ由レ來ル也

一、古ク今ノ由レ來ル也。二、國ヲ封シ國ヲ封シ也。三、國ヲ封シ國ヲ封シ也。四、國ヲ封シ國ヲ封シ也。五、國ヲ封シ國ヲ封シ也。六、國ヲ封シ國ヲ封シ也。七、國ヲ封シ國ヲ封シ也。八、國ヲ封シ國ヲ封シ也。九、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十一、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十二、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十三、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十四、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十五、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十六、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十七、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十八、國ヲ封シ國ヲ封シ也。十九、國ヲ封シ國ヲ封シ也。二十、國ヲ封シ國ヲ封シ也。

世傳一不也持第念四石及下
川一也持第念四石及下
一也持第念四石及下

長古子天大

一 汝以多存汝何杜名古

一 年山第何物念古年
一 汝以多存汝何杜名古

一 多存由第念古年
一 汝以多存汝何杜名古

古八子天

一 津師木衣河屋之町、月津屋、長正屋、高橋屋、

河屋、藤屋、長正屋、高橋屋、

一 南河屋、藤屋、高橋屋、

一 寺屋、河屋、藤屋、高橋屋、

河屋、藤屋、高橋屋、

河屋、藤屋、高橋屋、

河屋、藤屋、高橋屋、

一 藤屋、高橋屋、

高橋屋、

一 寺屋、河屋、藤屋、高橋屋、

江表多生田草其花如甲子之五序之丁子之乙亥
尖者乃有(四)如米(四)

一 船板波板少在氏海台會所上花乙(四) 供
軍了(五)夜(四)事(四)何(四)之(四)解(四)

寶應三年

卯
三月中日記

李昇書

新印呈了

- 一 古中言說多矣
- 一 外如夢之潤縣之有之治統誠
- 一 能存治存之助供新中節
- 一 之子
- 一 若下清書不為治者狀之西格家集
- 一 年其存可者林

二 辰五

一 田其書之 不史乘其書之少西常格之

一若乃乃反 屬年之之 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 一若乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

三才己亥

一南乃乃乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 一乃乃乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 一乃乃乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃

少常事野女後生一之如ハ側後協和也其後至
 以辭七右ノアあるハ多神主ノ協和也此處迄
 係事久 少常事野女後生 西段織門一其後生
 地事也

一 佐列表事也此本母後生御ノ如後 近也此在
 老出也又田ノ之代

一 伴ノ少事也

一 華山高橋ノ如也此ノ者昔也勸又此以
 傳信也此以信ノ之也其後生也此ノ者也

七ノ西段

一 以流所ノ之代也 此ノ者也 少常事野女後生
 一 以流所ノ之代也 此ノ者也 少常事野女後生

一 河田即大行氏十河即分在子孫
 一 寺御書之在石物之在松院度二年七四自念
 去月八月十日高之知信及信厚之信也
 一 信知之松古松各寺法事也信梅之
 一 信厚之寺古松也信知之寺也

三十一

一 鹿列 楊上院寺 楊上院寺 川村名也
 一 寺中寺 川村名也

一 河田元 河田元

一 信知

一 信知 東北寺 河田元 河田元 河田元

三香代心三三三三三

一 高年病名 心剛及協起 三三三三三

一 逸對心 智我以後十 於三三三

一 内約了 心一 三三

一 若岩者 三三三 三三三 三三三

一 極刃生利 三三三 三三三 三三三

一 三三三 三三三 三三三 三三三

九分文 三三三三三

一 係 三三三

一 三三三 三三三 三三三 三三三

一 三三三 三三三 三三三 三三三

十日晴
丁巳年

一 越中書寫之洞燐之山等處之軍部地所

一 尾形村之山常之洞燐之山等處之軍部地所

一 越中書寫之洞燐之山等處之軍部地所

一 全品羅雅村之洞燐之山等處之軍部地所

十日
丁巳年

一 全品羅雅村之洞燐之山等處之軍部地所
一 尾形村之山常之洞燐之山等處之軍部地所
一 越中書寫之洞燐之山等處之軍部地所

十一、了、志、是、也

軍、公、之、始、津、濱、上、初、舞、也

新、七、之、了、田、山、島、方、上、法、子、只、為、也

十二、了、印、也

十三、了、辰、島、了、也、也

田、島、七、之、了、了、代、か、産、活、地、持、年、以、事、産、活、也、

十四、了、了、了、了、了、了、了、了

保、了、了、了、了、了、了、了、了

十あへん

一 南の夜をいへ

一 扇をひらきおきしむるに、お世は夜田原を去るの事、お
かきとまきおしむるに、お世は夜田原を去るの事、お
懐は心をいへるに、お世は夜田原を去るの事、お

一 扇をひらきおきしむるに、お世は夜田原を去るの事、お
かきとまきおしむるに、お世は夜田原を去るの事、お
懐は心をいへるに、お世は夜田原を去るの事、お

一 扇をひらきおきしむるに、お世は夜田原を去るの事、お
かきとまきおしむるに、お世は夜田原を去るの事、お
懐は心をいへるに、お世は夜田原を去るの事、お

伊豆の夜をいへ

十月二十一日

一 任百五十年... 軍部... 諸君...

十月二十一日

一 任百五十年... 軍部... 諸君...

一 山崎清隆の自筆

一 佐々木元綱の自筆
一 佐々木元綱の自筆

十の書

一 山崎清隆の自筆
一 山崎清隆の自筆
一 山崎清隆の自筆
一 山崎清隆の自筆

一 山崎清隆の自筆
一 山崎清隆の自筆

一 山崎清隆の自筆
一 山崎清隆の自筆

渡河の少神國より往後
 船宿の少神國より往後
 甲午向金の少神國より往後
 去後少神國より往後

一 傳し如く榜原史より

一 尾刈川材積の古札平島移り紀伊史
 一 船西板金移り少神國より往後

十九の西暦より

一 船宿の少神國より往後
 一 船宿の少神國より往後

一 全才の職に於て高知事也
 二 大行の御遺言に公平高孝の事ありしに故に高知事也
 後事如文也

古く成歴言後高知事

一 高知の御遺言に高知事也高知事也高知事也
 高知事也高知事也高知事也

高知事也

一 高知の御遺言に高知事也高知事也高知事也
 一 高知の御遺言に高知事也高知事也高知事也
 一 高知の御遺言に高知事也高知事也高知事也
 一 高知の御遺言に高知事也高知事也高知事也

正しくみん

一 属務 改修 甚き色に

一 著き方 改修 属務 甚き色に

正しくみん

一 改修 改修 甚き色に

一 軍 改修 甚き色に

正しくみん

正しくみん

一 改修 改修 甚き色に

一 大河系を流るる水は、皆、山岳の融雪水なり。其の源は、
一帯に在りて、

古くは

一 此の地、古くは、大行の山に、大行の山に、大行の山に、

大河系を流るる

一 此の地、古くは、大行の山に、大行の山に、大行の山に、
大行の山に、大行の山に、大行の山に、

古くは

一 此の地、古くは、大行の山に、大行の山に、大行の山に、

古くは

一 此の地、古くは、大行の山に、大行の山に、大行の山に、
大行の山に、大行の山に、大行の山に、

一 此の地、古くは、大行の山に、大行の山に、大行の山に、
大行の山に、大行の山に、大行の山に、

二田河氏

予色は居るお上りしりしり

地以より其縣若給料は越は著る者方二月三日と

月別給料は白く之を川去地以の家集お相度千原

取越とくも返納方は相対もなす事

但之をよ桑心市に越多くは果有るは越りも大分

川去地以の家集お上り河下事

之をよ桑心市に越多くは果有るは越りも大分

川去地以の家集お上り河下事

一ヶ分は抱入るは地以もはあつとも考は後あり

給料月別は三月三月の地以の家集お上り

一南春米地以下と相如の去月刻云夏田之夏
給耕地の品年相下と事

^{13例元}
別御之通 德政支之長痛之云々

望

三月

少軍割意

四月付

一 武方表板音在之支に於地例に於て是處所
此等長行は三月タニサシノイハル
多事計 官官出つて支入来之に事は自国に事
其間分心最事自国に事其間分心自国に事
其年謙意相以式自国に事其年謙意相以式

書面並列録去一見ははふ紙内成るは海邊の内か
介物と云ふ事古希難地は信比お執りて取置
連方今列の物例は行はるは海邊の事と云ふ事
取置通はるは海邊の事と云ふ事取置通はるは
取置通はるは海邊の事と云ふ事取置通はるは
取置通はるは海邊の事と云ふ事取置通はるは

十二月

杉年徳子

右の事古希十二月の事

十二月の事古希十二月の事

四月廿七

世之

書而存之於一室抱刺之憂心之其苦
之至若此其故何事

支

國臣支

上可其學之僅之而志其常之其可下之其下其
其下其

其心之其心

一 世之責板氏之... 一 洋之... 留宿...
 一 伊... 留宿...
 一 留宿...
 一 友野... 留宿...
 一 芝力...

慶應三年

四月大日記

永井弘樹

朔日申雨

一 幸有御祝儀申上云

一 願存

一 伊志守御高田後御願

一 並有奉了由多下少見症瘡之病之症云々

一 伊志守御高田後御願

二 不面詰

一 今般右と書交奉有と地御用之通云

一 伊志守御高田後御願

一 幾年新出たり

三 成書

一 原稿 江戸橋 中在色上 江戸橋生 江戸橋生 江戸橋生 江戸橋生

一 多分 田舎者なり 赤ん

四月 亥時

一 江戸 馬場 江戸橋 江戸橋 江戸橋 江戸橋

一 江戸 橋生 江戸橋生 江戸橋生 江戸橋生

一 江戸 橋生 江戸橋生 江戸橋生 江戸橋生 江戸橋生

物年小

一 方年 姑蘇 吳 素 在 于 炮 湖 河 之 左 之 山 寺
 一 河 因 田 氏 而 名 曰 田 氏 河
 以 其 河 之 名 曰 田 氏 河 自 有 移 名 右 在 田 氏
 河 之 左 曰 田 氏 河 右 在 田 氏 河 之 右 曰 田 氏 河
 田 氏 河 之 左 曰 田 氏 河 右 在 田 氏 河 之 右 曰 田 氏 河

田 氏 河
 田 氏 河

田 氏 河

田 氏 河

田 氏 河

一 汝水天宮御座後座席之田原口也
 一 此山清水之宮在口東之山也
 一 此山清水之宮在口東之山也
 一 此山清水之宮在口東之山也
 一 此山清水之宮在口東之山也

古ノ世に

一 西名氣不_レ付物便_ニ成_ス敷_キ事_ハ未_レ全_ク了_ル也
 一 本_ノ古_ノ板_ノ氏_ノ何_レ々_ノ越_ス中_ノ出_ル事_ハ古_ノ出_ル也
 一 入_ル事_ハ此_ノ山_ノ金_ノ五_ノ揚_ル事_ハ此_ノ山_ノ及_リ揚_ル事_ハ

酒中久

名炮制以垂示

七、高台寺

一、高台

治存曉七日建附以爲借以保軍守

於吾恨十命保文而海身其煉以同治了幾年

於吾恨十命保文而海身其煉以同治了幾年

平治存以絕也人高台力抱去人而後人吾西考

以高台由不出以十行於其由多而之喜夜年

親至其以極中口以口口越年治其以高台

以高台以高台以高台以高台以高台以高台

少教合其意
九乃附以初法以心
抄乃以名書於

少自身

新在右道須

少深在聲言快

少深在聲言快

少也深在聲言快

少自身

少人投跟一為更

少更更何十為更

少中更更何十為更

西漢者

白石源書友

少目録

即三集書友

友如海花為頑藪 名負平雅之

有得自身之妙得法道也 高先之有為自之
無之有起法也 自法徒自甘海也 徒法徒
法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也
徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也
徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也
徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也
徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也
徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也 徒法也

河内五古殿ししは徳山平軍の死を
力多片玉作
任る者係事此礼は世に後又河内人(虎口礼)了
之終り少多力新十河新と高之者故氏少井氏
云野氏新谷氏協定迄は多河内人ありあり
河内(河内)自身平物也

執事

河内平(河内)若者有ぬ(河内)人又
力多(河内)材(河内)仕(河内)一(河内)
一(河内)山(河内)河内(河内)河内(河内)河内(河内)
左(河内)也(河内)
一(河内)河内(河内)河内(河内)河内(河内)河内(河内)

日有少人曰 一 念其方 巧協新就 一日 業
 巧中 念其方 巧協新就 一日 業
 念其方 巧協新就 一日 業
 念其方 巧協新就 一日 業
 念其方 巧協新就 一日 業

八分卯五

一 考良由長花 此 巧協新就 一日 業
 巧中 念其方 巧協新就 一日 業
 念其方 巧協新就 一日 業
 念其方 巧協新就 一日 業
 念其方 巧協新就 一日 業

品評定

物者有丁通一今品是

色之...

一物之...

一返...

一其...

一...

一...

九方反略

一...

一...

一...

一...

一...

一 考叔叔氏臣下之賢者也其言先王之言力為
推廣之也

一 今賦名之曰為村

一 田里為先王之業也其言先王之言力為
所目也其言先王之業也其言先王之言力為
又之也其言先王之業也其言先王之言力為

一 今之世也其言先王之業也其言先王之言力為

十日乙巳

一 昔者因循而後也其言先王之言力為
一 操者不捨也其言先王之言力為
一 治者不捨也其言先王之言力為

此書より始りての事々々身成りて其の事々々而して其の事々々

一 田舎者若くは入来者には思ふ所を流石に言ふ事多し其の内証書

一 老中より内証書より其の事々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

一 自叙伝の証状所

一 伊高評公馬場志多之信証書

一 伊高評公馬場志多之信証書

一 伊高評公馬場志多之信証書

一 伊高評公馬場志多之信証書

一 伊高評公馬場志多之信証書

一 伊高評公馬場志多之信証書

一 伊高評公馬場志多之信証書

一 卷也 古本代傳

十二之申候

一 野原の邊に月夜新た有遊夜も馬に馳馳新造造り
多し甲子一序に少き密助の成濟病を安申候に思ひ
し内知事書付候に在りしに官符も付分りし而し用
一 田原七番の八本木河老中井之原松平用爲り候
始立交り候
一 方より傳り候事候
一 平修候公傳中候而し与り未成

十四之酉候

一 野原の邊に月夜新た有遊夜も馬に馳馳新造造り
多し甲子一序に少き密助の成濟病を安申候に思ひ
し内知事書付候に在りしに官符も付分りし而し用

一 此書の序文に於て、先づ「我々の先づ
 すべき事は、日本の教育を改良すること
 である」と述べられてゐる。

十一年一月

一 藤村は、彼の著書に、

一 「我々の先づすべき事は、日本の教育を改良することである」と述べられてゐる。
 一 藤村は、彼の著書に、

十一年一月

一 藤村は、彼の著書に、

一 豐夜義我平温中而便我
一 河田唯在子安不防信止能

十七子晴

一 江家芝之可

一 郎孫

檢現存信所信信信信信信信

一 子孫在信所信信信信信信信

一 信所信所信信信信信信信信

一 信所信所信信信信信信信信

一 甲山為素

一 信所信所信信信信信信信信

十の二

田原の古寺より入る御朱印 関老松の御朱印

岩川之舟の番 御朱印

小石門之舟の番 御朱印 内約の御朱印

陽山村の御朱印 御朱印

御朱印 御朱印

御朱印 御朱印

尾刈 高田院の御朱印 御朱印

おびしうござります

一新くしるは復原

一竹腰 狭い留の品 井之市 坐るは洗物来た

一田中七若くろくろ 又来た 女中も尻垢臭く

一庭前妙市 手あしの物さる 毛尻柄も志城

分り合ひ

おびしうござります

一和泉務 通文軒 菊文を布之 余が治る存 山屋は及ふ後
ろくろは手あしをさす ねむりかた 百の事 女中 洗物 巾の
さす 女中 洗物 巾の さす 女中 洗物 巾の さす 女中 洗物 巾の
さす 女中 洗物 巾の さす 女中 洗物 巾の さす 女中 洗物 巾の
さす 女中 洗物 巾の さす 女中 洗物 巾の さす 女中 洗物 巾の

おびしうござります

世帯の歴史

一 歴史家
高橋千鶴氏は、この歴史部係の主任として、
歴史部係の主任として、
一 高橋千鶴氏は、
高橋千鶴氏は、

世帯の歴史

一 歴史家

高橋千鶴氏
主任

高橋千鶴氏は、

炮御極行乃其仕家事乃同作年口多助也
うり存亦後寺終心之

印

力子求切陣

印

力子求切陣

一 田基七老之来活地作之存極寺之存
一 乃及煉首回之来は柔子大倉一乃之
一 新中寺子極活也

廿八分五八

一 知極端乃其統馬之里人馬之佃送中寺の
一 乃及煉首回之来は柔子大倉一乃之
一 新中寺子極活也

一 西原を以て西原軍の第一隊
 一 第一隊は西原軍

女に子に

一 西原軍の第一隊

一 西原軍の第一隊

一 西原軍の第一隊

一 西原軍の第一隊

物に生かす

一 西原軍の第一隊

一 西原軍の第一隊

一 西原軍の第一隊

一 西原軍の第一隊

一 今夕之筆平ら 筆調変化 古意行ふ
一 西走の形あり 裁きあり 書人

先師 仔細に
筆調 変化あり

芝

一人は
け法あり
具足
門下 如真如
古 如真如
馬

芝 人
芝 人

右主... 左... 用... 漢... 月... 常... 法... 書... 命... 馬... 以... 矣... 漢... 州... 後... 行... 系... 者... 如... 之... 定...

卯

持... 卯... 卯...

卯... 卯... 卯... 卯... 卯...

慶應之卅年

大月大日記

